

戊辰戦争は 鳥羽・伏見（京都）から始まった。

坂本龍馬の仲介で薩摩藩（鹿児島）と長州藩（山口県）が薩長同盟（1866）を結んだことにより、日本は、江戸幕府による政治から天皇中心の政治に移行する動きが急速に高まり、慶応3年（1867）12月に天皇中心の政権樹立が宣言（王政復古の号令）されました。

最後の將軍徳川慶喜や多くの藩はこの宣言に従いましたが、翌年1月3日、鳥羽・伏見で新政府軍と、これに反発する幕臣や諸藩軍が衝突し、戊辰戦争が始まりました。
当時、討幕派志士の取り締まりなどを行う京都守護職として、幕府の中心的存在だった会津藩と、その配下の新選組も旧幕府軍として戦いましたが、6日には江戸に敗走しました。その後、会津藩は、維新の象徴として武力討幕を目指す新政府から、幕府方の首謀者として追討令を受け、新政府軍が会津藩に向けて進軍を開始します。

慶応4年（1868）、 小峰城は空き城だった。

白河城主・幕府老中であつた阿部豊後守正外は、慶応元年、神戸開港問題で朝廷から責任を追及されました。そして、幕府より、老中を罷免、国許謹慎を命ぜられ、朝廷に対する幕府の責任を一身に背負わされました。父の後を継いだ美作守正静は、慶応3年、棚倉藩へ所替えを命ぜられ、移封（国替）しました。空き城になった小峰城は、幕府が直轄し、幕命で二本松藩兵が駐留していましたが、新政府樹立後は、仙台藩が駐留しました。

会津藩の進攻

慶応4年閏4月20日（この年は閏年で4月が2度あり、陽暦で6月10日）、暁、会津藩が小峰城を襲いましたが、戦意がない駐屯兵は、本丸に火を放ち退いたので、城は会津藩が占拠しました。そして、22日には、宇都宮城の戦いで負傷した土方歳三（新選組副長）に代わり、齋藤一（新選組三番隊長）が指揮する新選組130人も入城して、その後、白坂宿の防衛態勢に加わりました。

その当時、仙台藩、米沢藩などの東北諸藩は会津藩に同情的で、会津藩赦免の嘆願を行う一方、東北25藩、越後6藩が参加して、反新政府の奥羽越列藩同盟が結成されました。

小峰城の攻防 I

宇都宮城の戦いに勝利した薩摩藩・伊地知正治が率いる新政府東山道軍は白坂宿へ奇襲をかけましたが、新選組を中心とする会津藩兵士はこれを迎撃し、新政府軍13兵士の首級が中町の大手門前に晒されました。その中のひとりに、新選組局長近藤勇の死に大きな関わりを持つ薩摩藩士武川直枝がいました（新政府軍が新選組を包囲した流山で、大久保大和と名乗る人物は近藤勇だ）と元新選組隊士だった武川直枝が見破ったため、近藤勇は処刑されました。

翌26日に白河口総督として会津藩家老西郷頼母と副総督会津藩横山主税が小峰城に入城しました。また、29日には、新選組は担当していた白坂宿詰めを仙台藩兵と交代し、本町の脇本陣「柳屋」に移り休養しました。この頃の両軍の兵力は、同盟軍約2,500人、大砲10門、新政府軍約700人、大砲8門と言われています。



今から143年前、薩摩藩・長州藩・大垣藩・忍藩を主力とする新政府軍と、会津藩・仙台藩・二本松藩などの奥羽越列藩同盟軍が、小峰城を巡り、100日間に及ぶ激しい争奪戦を繰り広げました。この「戊辰白河口戦争」が、日本の「明治」という新しい時代への幕開けとなりました。
今月号では、白河が舞台となった幕末の歴史を紹介するとともに、中心市街地に数多く残っている慰霊碑を皆さんと一緒に巡ってみます。

白河口の戦い

特◎集
今、幕末の歴史を！



Topics1
沖田総司と齋藤一
マスコットキャラクター

「白河口の戦いの慰霊碑を歩いて巡るルート」を、本市の新しい観光資源としてPRするため、(株)楽市白河が作成しました。ただ今、愛称募集中 (☎@1448) です。

Topics2
白河ゆかりの
新選組一番隊長「沖田総司」

沖田総司は奥州白河藩士沖田勝次郎の子ですが、家督は姉の夫・林太郎が相続したため、藩に籍を置いた記録はありません。江戸の白河藩阿部家下屋敷で生まれ、新選組に結成から入隊し、池田屋事件でも活躍していますが、戊辰戦争では、肺結核のため戦列を離脱しています。

Topics3
楽蔵「白河見聞館」

◎開館時間 9:00～17:00（年中無休）
◎入場料 大人200円、小・中・高校生 100円
☎白河見聞館 ☎@8630

戊辰戦争全体、白河口の戦い、白河藩、会津藩、新選組等に関する資料を展示しています。ここで予備知識を得てから慰霊碑巡りに出掛けると、さらに楽しさが倍増します。特に松平容保、西郷頼母の直筆の掛軸は一見の価値があります。
※戊辰戦争に関する資料の提供者を探しています。

Topics4
大河ドラマ「八重の桜」

2013年（平成25年）NHK大河ドラマ「八重の桜」は、会津女・新島八重と仲間たちの愛と希望の物語です。その中では、新島八重が戊辰戦争の籠城戦で銃を持って戦うなど、後に「幕末のジャンヌ・ダルク」と讃えられる生き方が描かれます。
会津藩の籠城戦は、白河口の戦いからの敗走を語らずに描けません。100日間にわたる攻防戦のシーンを出来る限り取り上げてもらいたいと考え、市では関係団体と協力し、本市のPR活動を行っています。

展示品

△松平容保書
△ベーゲル銃
△エンフィールド銃
△スナイデル銃
△西郷頼母掛軸
△白河町大戦争

8ページに続く

小峰城の攻防Ⅱ

5月1日(陽暦6月20日) 暁、新政府軍は白坂より兵を三隊に分け進行してきました。正面隊は奥州街道を進み小丸山に布陣、西翼隊は黒川から進み原方街道(国道4号)を、東翼隊は夏梨から棚倉街道方面に迂回してきました。正面から稲荷山の同盟軍防塁を総攻撃するように陽動牽制し、両翼より包囲攻撃しました。

小雨降る中の死闘の末、小峰城は新政府軍に占領されましたが、この日の同盟軍の死者は683人、新政府軍の死傷者は70人と武器の威力の差が大きく同盟軍の惨敗でした。

小峰城陥落は、奥羽越列藩同盟に深刻な衝撃をもたらし、5月27日、6月12日、7月1日に、小峰城包囲総攻撃を含む激しい戦闘が繰り返されました。同盟軍の小峰城への攻撃は7月14日が最後となり、その後、周辺地域で戦闘が続き、7月28日以後、白河口での砲声は途絶えました。

この白河口の敗北により奥羽越列藩同盟は崩壊し、二本松少年隊、会津白虎隊の悲劇が生まれました。7月29日に二本松落城、9月8日には慶応が明治に改元され、1か月に及ぶ籠城の末、9月22日には会津藩が降伏しました。

また、100日間にわたる白河口の戦いにおける戦死者は、記録によって相違しますが、同盟軍927人、新政府軍は113人と言われています。

そして、両軍とも敵に利用されるのを怖れ集落に放火したため、市街の一部、根田(白河市)、上羽太・下羽太・虫笠(西郷村)など数多くの集落が焼かれ、人馬も強制徴発されましたが、白河の人々は、遺棄された戦没兵士を手厚く葬り哀悼の気持ちを表した碑を立て、同盟軍、新政府軍を問わず、今も香華を手向けています。

白河口の戦いと新選組

新選組は、京都守護職として京都の治安維持に務めていた会津藩主松平容保の支配下にあった特別警察隊であり、慶応元年には150人の隊士が所属している武闘集団でした。奥州白河藩士の子沖田総司、白河口の戦いで新選組隊長となった齋藤一らは、隊の結成にかかわった同志であり、近藤勇局長、土方歳三副長支配下の最高幹部・副長助勤として、討幕過激派志士を震え上がらせた。

近藤勇局長が処刑されて以来、離散していた同志が会津若松城下に集結し、閏4月5日(陽暦5月25日)、白河口への出動が指令されました。隊長は、宇都宮城の戦いで足を負傷した土方歳三に代わって齋藤一が任命されました。

新選組は、閏4月22日から5月1日まで白河に滞在して戦い、その後も数度にわたり、会津領内の三代宿や福良宿から白河周辺に出陣しています。

Interview

ここでは、白河藩最後の大名として戊辰戦争における阿部家の立場などについて伺いました。



阿部家第22代当主
阿部正靖さん

幕末の白河藩と阿部家

阿部家は、三代將軍徳川家光公に大名に取り立てられ184年間忍藩主で、文政6年(1823)に白河に移封となりました。

それから43年間藩主を勤めましたが、他の藩では百姓一揆が多発するなか、白河藩では一度もありませんでした。

16代・阿部正外が、元治元年(1864)に藩主になりました。正外は阿部家の分家で旗本の当主から、井伊大老の直命で和宮降嫁の禁裏付となりました。その後、神奈川奉行で生麦事件を処理し、外国奉行、町奉行を歴任し実力をかわれ幕命により白河藩主になり、3か月後には老中に任じられました。

第二次長州征伐で大坂に滞在中、英仏蘭が神戸港沖合に軍艦で現れ、強硬に神戸港開港・大坂開市を迫りました。拒否をすれば幕府が崩壊するとして無勅許で開港を決めました。朝廷は正外の違勅を咎め官位を剥奪したうえ、改易の勅命を下し、正外は隠居・蟄居を命じられ棚倉に移封となりましたが、その一週間後には朝廷は勅許を出しています。

この鎮護神山は薩摩藩の慰霊碑だよ!

長寿院は、西軍の一人ひとりの墓があるよ。

永蔵寺には東軍の戦死供養塔があるんだね。

谷津田川には戦死者のための慰霊碑もある!

ここ柳屋は新選組が宿泊した場所だよ!

常宣寺は、会津藩の荘厳な慰霊碑だよ!

関川寺入口には、東軍の慰霊碑があるの。

わあ、皇徳寺は、新選組・菊地央の墓が!

慰霊碑マップ
ここでは、中心市街地にある慰霊碑を紹介します。

いざ、歴史のまちへ

特◎集
今、幕末の歴史を

白河口の戦いは多くの悲劇を生みましたが、東西両軍の戦死者を手厚く祀った29もの慰霊碑があり、今も続く白河人の愛情深き思想に繋がっています。ここでは、新選組隊士と町娘とともに、慰霊碑を巡ってみました。